# 浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成２５年９月　　第３６号

## 今回のテーマとして「お念珠（お数珠）」を取り上げてみました。

### 「ある婦人会会員さんの声」

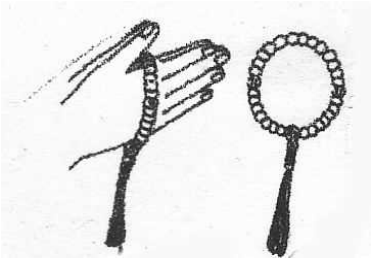
お友達のご主人様のご葬儀にお参りさせていただいた時のことです。
奥様はもちろんお念珠を持っておられましたが、ご家族の方々や数人のご親族の方が持っておられませんでした。以前なら気付かなかったと思いますが、婦人会に入れていただいたお陰で、お念珠を持ってお参りをすると言うことが当たり前なのだと言うことが分かりました。

私は婦人会に入会させていただいてから２年になります。最初は何も分からず正直に言って戸惑うこともありました。しかし、会長さんがいつも温かくお声をかけてくださり、今ではほとんど休むことも無く出席させていただいております。そのお陰でこの頃は自信を持って正しいお焼香も出来るようになりました。もちろんお念珠はいつもバッグの中に入れております。

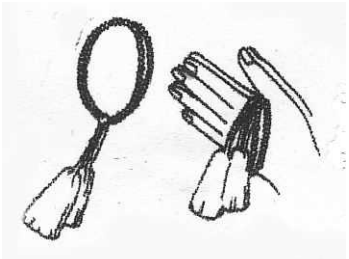
ご住職様の分かりやすいご法話もこれからも身体が続く限りお聞かせいただき、日々の糧にしたいと思っております。合掌

### 「お念珠を持ちましょう」

お念珠はいつの時代も仏教徒において最も尊重すべき礼拝の法具として大切にされてきました。日頃の生活の上で我が身の心身を慎み、またご恩を尊び、仏前に礼拝する際の合掌礼拝という信仰の表れとして念珠を持つことは大切なことです。



一輪念珠の持ち方



二輪念珠の持ち方

## 『浅田正作先生の念仏詩集より』

**「お寺」**
ここへ来て座ると　肩の荷が下りたような
母の懐へ帰ったような　ホッとした暖かさと　安らぎを覚える
薄暗い本堂が　とても静かで
そこの太い欅の柱や　この畳の上にも
父や　母や　祖父母や　そのまた親たちの
懐かしい歴史が　刻み込まれているようで
「よう来てくれた」という　アミダ様のお声が　聞こえてくるようだ

**「畜生」**
交差点に差しかかったら　信号が黄色にかわった
ブレーキを踏みながら　「チクショウ」と言った
あさましや　畜生は　仏法聴聞にゆく　車のなかにいた

## 読　者　の　広　場

「仏壇に　本尊なきは　ただの箱」
　　「ただの箱　知らずに拝む　８０年」
「弥陀の前　反省するも　即忘れ」
　　「最初はグー　シルバーパワーも　腰が立ち」（新年会にて）

Ｎ．Ｃ

日曜礼拝に来られるお同行の方が、ご住職が丹精込めて育てられた蓮鉢に目がとまり思わず携帯でパチリ！今にも咲きそうなそのつぼみ。一週間後は・・・？見事な満開に目を楽しませていただき、とても癒やされました。合掌

７月２１日

７月２８日